

一般社団法人日本熱帯医学会
2022 年度第 1 回理事会議事録(案)

日 時: 2021 年 11 月 3 日(祝・水)9:30-12:45

場 所: オンライン会議

出席理事: 有吉 紅也、石上 盛敏、押谷 仁、金子 修、河津信一郎、金 惠淑、小林 潤、
齊藤(小畑)麻理子、澤邊 京子、中澤 港、中村(内山)ふくみ、濱野真二郎、
山城 哲、吉川 正英、吉田レイミント

欠席理事: 山本 太郎

出席監事: 狩野 繁之、門司 和彦

欠席監事: なし

列席者: 福田 緑(事務局)

- ・ 理事会構成員 15 名の理事および監事 2 名の出席を得て理事会が成立したことを確認し、理事長を議長として議事を進行した。

【報告事項】

(1) 2021 年度事業報告

- ・ 濱野真二郎庶務担当理事より、2020 年 10 月から 2021 年 9 月までの事業が報告された。
- ・ 濱野真二郎庶務担当理事より、2021 年 6 月 23 日開催の 2021 年度第 4 回理事会議事録(案)について説明され、承認された。

(2) 2021 年度庶務・編集報告

- ・ 濱野真二郎庶務担当理事より、2021 年 10 月 15 日現在の会員会員数は、779 名と報告された。(特別会員 8 名、名誉会員 25 名、功労会員 35 名、評議員 91 名、正会員 319 名、学生会員 188 名、在外会員 95 名、ポスドク会員 15 名)(団体会員 2 団体、賛助会員 1 団体)
- ・ 学生部会への入会者により、学生会員が大幅に増加した。
- ・ 有吉紅也編集担当理事より、学会誌 Tropical Medicine and Health の投稿数、掲載数ともに順調に伸びていると報告された。APC デポジット残高には余裕があるので、学会員の投稿をお願いしたい。
- ・ 橋爪真弘編集長より、BMC レポートの説明があった。投稿から 1 回目の査読結果決定まで 19 日で、アクセプトからオンライン出版まで 17 日という平均値。サイトスコアが 2.5。(過去 4 年分)アクセプト率は約 3 割を保っている。国別投稿数、閲覧数を分析すると、国際化は進んでいると判断できる。来年の 6 月頃には、IF の申請結果が分かる予定である。著者アンケートでは、83%が「TMH に投稿してよかった」。65%が「もう一度投稿したい」という評価結果であった。狩野繁之監事より、エチオピアの方の APC の学会補助について質問があり、橋爪編集長からエチオピアは APC の免除対象国である旨の回答があった。

- Best Paper Award に、「Detection and discrimination of multiple strains of Zika virus by reverse transcription-loop-mediated isothermal amplification. Hiroka Aonuma, Itoe Iizuka-Shiota, Tokio Hoshina, Shigeru Tajima, Fumihiro Kato, Seiji Hori, Masayuki Saijo & Hiroataka Kanuka. Tropical Medicine and Health. 2020;48:87.」が選定されたとの報告があった。
- (3) 第 62 回大会準備状況報告
- 押谷仁大会長より、本年度大会の準備状況について報告された。無料で配信しているセミナーもたくさんある中、学会のオンライン開催の在り方も考えていけないのではないかと提案があった。
 - 大会事務局の齊藤(小畑)麻理子理事より、参加登録者数が 178 名(一般会員 93、一般非会員 24、学生 45、学生非会員 16)と少なく、財政上、かなり厳しいとの報告があった。
- (4) 第 63 回大会準備報告
- 西園晃次期大会長より、来年度はリアル開催の予定であるとの報告があった。
 - 2022 年 10 月 8 日(土)～9 日(日)、別府市での開催を予定。第 26 回日本渡航医学会学術集会との合同開催である。
 - テーマ: Suffering, Creativity and Innovation: Pathways to Global Health in COVID-19 Era and Beyond
- (5) 各委員会報告
- 日本医学会評議員: 金子修理事長より、日本医学会創立 120 周年記念誌の日本熱帯医学会の項目を狩野前理事長と金子修現理事長で執筆し提出。今後、2021 年 12 月 5 日、令和 3 年度女性医師支援担当者連絡会(日本医師会女性医師支援センター、日本医学会連合 共催)に女性医師会員(長崎大熱研内科)参加予定、2022 年 2 月頃、2022 年度第 89 回日本医学会定例評議員会。2022 年 6 月頃、日本医学会分科会活動報告提出。2022 年 6 月頃、2022 年度日本医学会連合定時社員総会。2023 年 4 月 15-23 日、第 31 回日本医学会総会が東京国際フォーラム、東京丸の内・有楽町エリア(<http://isoukai2023.jp/>)で開催されるので、多くの会員の参加をお願いしたいと、報告された。
 - 日本医学会用語委員: 吉川正英用語委員より、厚生労働省 国際分類情報管理室に ICD-11 和訳 MMS 版に本学会の意見を提出した。内容については、審議依頼分(7 月 26 日メール)に、「Amoeboma of Intestine」の和訳を「腸管アメーバ症」ではなく「腸管のアメーバ性肉芽腫」を追加したと報告された。
 - 史資料委員会: 中澤港委員長より、2021 年 8 月後半、長崎大学熱帯医学研究所熱帯医学ミュージアムで開催されたリンパ系フィラリア症の制圧をめぐる企画、セミナーに協力。同様の企画を、2022 年 2 月に目黒寄生虫館、ソウルの寄生虫博物館で行う予定。リンパ系フィラリア症の制圧をめぐる動画を作成した。今後、公開の予定。また、長崎県の高等学校の先生方とともに、この内容を今後教材化することを計画中。10 月 24 日、31 日に感染症アーカイブズのセミナー開催。資料整理の活動は中断のまま。但し、山梨の日本住血吸虫症、滋賀

のマラリアなどに関する資料調査、関係者との意見交換はリモートで継続している。と報告された。金子理事長より、もっとこの活動を前面に打ち出すために学会 HP からリンクした方がよいとの意見があった。

- 男女共同参画委員会:齊藤(小畑)麻理子委員長より、男女共同参画学協会連絡会への参加(第19期総会・第3回運営委員会(2021年8月23日)、第19回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(2021年10月9日)への参加の報告があった。今大会における第8回熱帯医学男女共同参画シンポジウム(日本医師会共催)について報告があった。男女共同参画委員の確認(継続・新規)があり、齊藤麻理子(委員長)・金淑恵(副委員長)・狩野繁之・金子修・河津信一郎・小林富美恵・齊藤美加・サトウ恵・沢辺京子・武井弥生・濱野真二郎・平林史子・美田敏宏・モイメンリン氏で委員会を構成するという報告があった。金子修理理事長から各委員会への予算配分の可否について議論してもよいかもしれないとの意見があった。
- 有吉紅也国際委員長より、ICTMM2020は本年に延期になっていたが、さらに来年に延期され、2022年10月24-28日(バンコク)になったことが報告された。昨年度第4回理事会で、英国の熱帯医学会とのパートナーシップを結ぶ提案があった件について、合同シンポを組むくらいでよくはないか?との意見があった。

(6) 学生部会報告

- 山城哲学生部会担当理事より、学生たちがテーマを決め、それを柱として活動している。それぞれのテーマごとに3回から6回、講演会や学生発表を行っている。例えば、国境なき医師団の関係者による講演を依頼したり、今大会で山崎部長がオーガナイザーを務めレクチャーを依頼したりしている。COVIT-19の状況を見ながら、来年度は夏合宿も実施したいという報告があった。学生からの意見を学会活動に反映させるシステムについては、今後の課題とした。

(7) その他 科研費-国際情報発信強化(B)の交付決定と執行計画について

- 有吉紅也理事より、科研費の交付決定の報告があった。(5年間1,950万円)
- Tropical Medicine and Healthの国際情報発信力を強化する取組として、「アジア地域に特有の疾病や公衆衛生課題に焦点をあてたケーススタディーを定期的に掲載する」「定期的に文献レビューを行い、アジアで重要な疾患や公衆衛生課題に焦点をあてた総説を連載する」また、新たな教育資源の構築として、「アジア地域にフォーカスした感染症・熱帯病制御に関わる教科書を刊行する」「アジア地域の感染症・熱帯病.制御に関する理解を深めるための医療専門家向けの日本語と英語のバイリンガル e-ラーニング教育リソースを開発する」という報告があった。
- 編集委員のコアメンバーとして、狩野繁之氏(微生物)・有吉紅也氏(臨床)・橋爪真弘氏(公衆衛生)に決定した。

- ・ 編集の方針として、一般的な熱帯医学の教科書(「e.g. Manson」など)との重複を避け、補足的テキストを目指す。各国で教科書では取り上げられない単体として世界が興味を持つ対策の歴史についても入れる。
- ・ 今後の執行計画について報告があった。2~3年目が最も支出が多くなると考えられるので、残高を繰越す予定である。
- ・ 金子修理事長から、読者層について質問され、「e.g. Manson」をイメージしているとの回答があった。小林潤理事から、「グローバル ウォーミング」を入れた方がいいのではないかとこの意見があった。

【審議事項】

- (8) 2021年度決算報告および会計監査報告
 - ・ 河津信一郎会計担当理事より、2020年度決算報告が行われ、承認された。
 - ・ 会計監査について、狩野繁之監事より報告され、承認された。
- (9) 2022年度事業計画・予算案の承認
 - ・ 金子修理事長より、2022年度事業計画について提案され、承認された。
 - ・ 河津信一郎会計担当理事より、2022年度の予算案について報告され、承認された。
 - ・ 金子修理事長より、編集委員長へのBMCからの報酬(約28万円)について、現在は寄付いただいているが、編集事務に対する報酬であり、将来の後任の方に寄付が前提のような圧を与えないために、寄付していただかない方が良いのではないかとこの意見があった。それに対して橋爪編集委員長から2023年以降の分は編集関係者で使用するようにしたいとの意見があった。
- (10) 新編集委員の承認
 - ・ 橋爪真弘編集長より、内諾いただいた新編集委員29名について報告され、承認された。橋爪真弘(東京大学)、高橋謙造(帝京大学)、樋泉道子(長崎大学)、Chris Fook Sheng Ng(東京大学)、Chris Smith(LSHTM, UK)、Krishna C Poudel(University of Massachusetts Amherst, USA)、Mizanur Rahman(一橋大学)、Moi Meng Ling(東京大学)、Shunmay Yeung(LSHTM, UK)、Sittiporn Pattaradilokrat(Chulalongkorn University, Thailand)、Togoobaatar Ganchimeg(筑波大学)、Yu Mon Sow(名古屋大学)、有吉紅也(長崎大学)、石上盛敏(NCGM)、大川純代(NCGM)、大田えりか(聖路加国際大学)、押谷仁(東北大学)、嘉糠洋陸(東京慈恵会医科大学)、金子修(長崎大学)、河津信一郎(帯広畜産大学)、児玉年央(長崎大学)、齊藤(小畑)麻理子(東北大学)、島川祐輔(Institute Pasteur, France)、鈴木基(国立感染症研究所)、須藤恭子(NCGM)、野中大輔(琉球大学)、野内英樹(結核予防会複十字病院)、我妻ゆき子(筑波大学)
 - ・ 編集委員29名中7名が日本国際保健医療学会からの推薦である。
 - ・ これまで日本国際保健医療学会の編集長であった高橋謙造(帝京大学)氏に副編集長を依頼し、樋泉道子(長崎大学)氏にも副編集長を依頼した。

- ・ 従来よりも、女性の起用を多くし、29名中11名を女性の編集委員とした。
- (11) 入退会者承認
- ・ 入会者と退会者がすべて承認された。
 - ・ 物故者4名(功労会員-伊藤洋一氏、功労会員-長瀬啓三氏、名誉会員-大友弘士氏、功労会員-伊藤亮氏)について、理事全員で黙祷をしてご冥福をお祈りした。
- (12) 功労会員候補者の承認
- ・ 功労会員に、遠藤弘良氏(元東京女子医科大学)と牧純氏(元松山大学大学院)が推薦され、承認された。
- (13) 2023年度大会の大会長の承認
- ・ 日本国際保健医療学会、日本渡航医学会、国際臨床医学会と合同大会を開催することで合意を得たことが報告された。グローバルヘルス合同大会2023(仮)
 - ・ 大会長の選定については、金子修理事長と狩野繁之評議員が他学会と調整していくことが報告された。
- (14) 広報・情報担当理事と委員会の設置について
- ・ 金子修理事長より、広報・情報委員会の設置と広報・情報担当理事として石上盛敏理事が提案され、承認された。
 - ・ これまでの有吉理事と小林潤理事が担当していた広報については、今後、広報・情報担当理事に移行する
 - ・ 現在は、長崎大学熱帯医学研究所のサーバーを借りているが、今後、学会独自で持つべきかどうかについては、検討事項とする。
 - ・ 金子修理事長より、「一般社団法人 日本熱帯医学会 広報・情報委員会規程(案)」が提案され、承認された。(2021年11月3日より施行)
- (15) 学会員の継続等について
- ・ 2年以上の年会費未払いがあっても、会員としてずっと会費請求を送っており、定款の文章と齟齬がある。今後は、2年目の請求書に、「2年以上を過ぎると自動退会扱い(除名ではない)となる」ことを明記し、そのうえで入金がない場合は、名簿から削除する。その後、熱帯医学会での活動を再度希望される方には、改めて入会してもらうこととする。
- (16) その他
- ・ 金子修理事長より、以下の定款の変更を提案され、承認された。
 - (役員を選任)
 - 第23条
 - (現行)
 - 理事は、評議員の中から別に定める細則により選出された13名、及び正会員の中から理事長が理事と協議して選出した3名以内、計16名以内を、評議員会の決議によって選任する。
 - (変更後)
 - 理事は、評議員の中から別に定める細則により選出された16名を、評議員会の決議によって選任する。
- 上記の変更に伴い、「理事選挙細則」を以下の通り変更する案が提案され、承認された。

(現行)

5. 選挙の結果次の者を順次当選者とする。
- 3) 得票が同数の場合は若年者順とする。
- 4) 地方区と全国区の両方に当選した場合は、地方区を優先とする。

(変更後)

5. 選挙の結果次の者を順次当選者とする。
- 3) 女性枠から選出される3名。
- 4) 得票が同数の場合は若年者順とする。
- 5) 地方区と全国区の両方に当選した場合は、地方区当選を優先し、全国区選挙結果の第2位以下のものを順次繰り上げ当選人とする。
- 6) 女性枠に加え、地方区と全国区の両方に当選した場合は、地方区または全国区当選を優先し、女性枠選挙結果の第2位以下のものを順次繰り上げ当選人とする。

第 38 条

(現行)

この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を経て、総会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

(変更後)

この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を経て、評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

- ・ 定款第 12 条 (会員総会) の項目を削除し、
第 14 条「2. 評議員以外の会員も評議員会に出席して、意見を述べることができるが、議決権は持たない。」
を追加する案が提案され、承認された。
- ・ 有吉紅也編集担当理事より、「一般社団法人日本熱帯医学会の学会誌 Tropical Medicine and Health 誌を一般社団法人日本国際保健医療学会の英文誌として認定することに関する合意書」について提案され、承認された。
- ・ 大会開催年度の年会費を支払うことで大会発表が出来る。前年度の入会であっても、先に 10 月 1 日から有効な会員番号を出すことにする。
- ・ 会員であれば弔電を送る。昨今は、葬儀が終わってから連絡があることも増えているので、弔電の代わりにはお悔やみの手紙、供花の代わりにお線香を出すこととする。
- ・ 年会費依頼を郵送ではなく、原則メールベースにしていく。メールアドレスを把握していない、あるいは、持っていない会員に対しては郵送で請求し、その際にメールアドレスを問い合わせることとする。
- ・ 会員種別が変更になっていて、会費の請求額の誤りを防ぐために、学生会員とポスドク会員は、会員種別を会員に記入してもらう方法で対応することとする。
- ・ 2022 年 10 月にシアトルで開催予定の米国熱帯医学会において実施が検討されている相川正道メモリアルシンポジウム(仮称)についての経過報告。日本熱帯医学会と Case Western Reserve University の相川正道メモリアルシンポジウム実行委員会が共同開催

することについて、Case Western Reserve University の Peter Zimmerman 教授に連絡はしているが具体案は固まっていない。

- 2020 年 12 月開催の評議員会で、狩野繁之評議員より、「国際委員会等に規程がないため当該規定を作成し、国際委員会の委員を増やすべきである」との意見があったが、現在の所未着手。担当決めて着手したい。
- 2020 年 12 月開催の評議員会で、狩野繁之評議員より、「各種議事録への議事録署名人による署名は、電子的にすることはできないか」、との質問があったが、可能であるため、今後は電子的に行うこととする。

閉 会

以上の議事を終え、12 時 45 分に閉会した。上記の決議を明確にするため、議長、議事録署名人 2 名がこれに記名押印する。

以上

2021 年 11 月 3 日

議 長 金子 修 ⑩

議事録署名人 門司 和彦 ⑩

議事録署名人 狩野 繁之 ⑩